

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

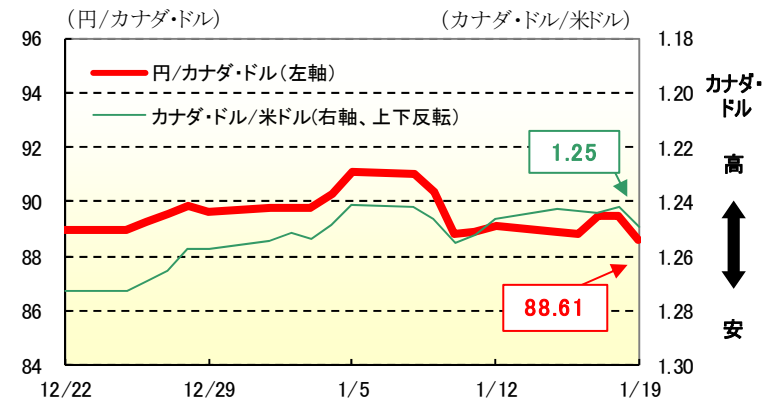
【2018年1月13日～2018年1月19日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、カナダで金融政策決定会合が開催され、カナダ銀行(中央銀行)は政策金利(翌日物金利の誘導目標)を0.25%ポイント引き上げて1.25%としました。利上げの背景として、経済が良好なこと、労働市場の緩みの解消および物価上昇がカナダ銀行の想定以上に進んでいることがあるとみられます。これを受け、カナダの金利やカナダ・ドルの上昇圧力が高まりました。一方で、原油価格が下落したことが、カナダ・ドルの下落圧力となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年12月22日～2018年1月19日)



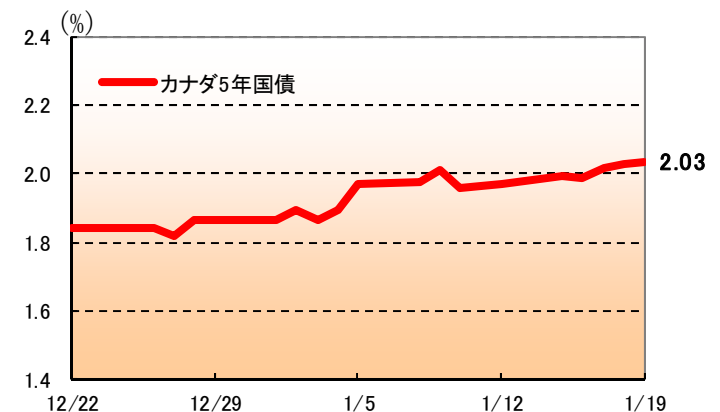
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは小売売上高やCPI(消費者物価指数)が発表されます。これらの指標の発表により、カナダ経済の堅調さが確認できれば、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になると考えられます。

一方で、米国の上院では与野党が移民政策に関して対立しており、下院で可決した暫定予算案を通過させることができず、政府機関が一部閉鎖される事態となっています。そのため、さらに協議が難航し、暫定予算成立への不透明感が増すような場合、金融市場で値動きが一時的に大きくなることが想定されます。

【カナダ 金利推移】 (2017年12月22日～2018年1月19日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>